

もりふれ倶楽部通信 NO. 32

はこべ（はこべら、ひずる） NPO 法人もりふれ倶楽部理事長



榎原道夫

はこべ（繁縷）ナデシコ科の越年草。日当たりのよい草地・畑などに多い。茎の下部は地をはい、よく分枝する。葉は対生し、卵円形。四～十月、枝のつけ根に白色のごく小さな五弁花をつける。小鳥のえさとする。春の七草の一。ハコベラ。アサシラゲ。

はこべじお（繁縷塩）干したハコベに塩を加えて煎った粉。近世、歯を磨くのに用いた。

大辞林（三省堂）に記載されたハコベの解説です。

国語辞典に掲載される植物なので大変な植物に違いありません。

また、春の七草が話題を提供する時期がやってきました。「せり、なずな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな、すずしろ これぞ七草」 古来(1000年以上の昔)から、人々の生活に密接に関わり、食草として、薬草として、その他様々に生活に関わりながら本日にまで営々として人々に親しまれてきました。しかし野菜として栽培されるようになったのは、すずな・すずしろのみ、後は残念ながら雑草としての地位しかもらえず、七草粥のときにのみ顔を表す程度で、なんとも気の毒なことです。

近年、早春にはびこるはずの野草の数々が、秋の終わりごろから初冬にかけて季節を繰り上げて花をつけ、また種子をつけ、寒さしのぎの新芽を保護する冬越し用のロゼット葉を省略し

て立ち上がったりと、地球温暖化の生物への影響の事例として、各地で話題を提供しています。

なかでも、はこべは 小鳥、ひよこの餌になり、青汁の原料に、その他健康食品の材料としてあらゆるところでひっそりと活躍していますが、ひずる(這ずるが転化?)と言われる様に茎が地面を這いずり、周りの雑草を巻き込んで、畑地、庭その他土がむき出しになっているところならどこでもでしゃばってきます。おまけに温暖化に乗じて、時をかまわず年中花をつけ、種子を撒き散らします。我が家の周辺でもわがもの顔で這いずり、12月中旬の今、5弁の(1花弁は真ん中から裂けたようになっているので10弁のように見える)白い花を咲かせているのを何本か見かけます。畑や、庭の草取りは、はこべ取りの感無きにしも非ずです。

ところで、温室効果ガス削減の国際基本条約 COP17 締結に向けての会議が、最も排出量大口のアメリカ・中国が難色を示して会議が十分に進まず、地球温暖化の阻止がままならない様子が報道されています。そんな中、温暖化が引き金になって起こっていると考えられる大規模な自然災害が、地球上のあらゆるところで甚大な被害を引き起こして、人々の生活を苦しめています。

暴風雨、集中豪雨等の水害・崩落・崩壊等は温暖化の結果そのものずばりですが、地震災害も温暖化により南極や北極圏の厚い氷塊・高山地帯の厚い氷河が溶けて流失、その部分の地殻の重さを軽くし、重さで沈みこんでいた地殻を隆起させる。それが、地殻下の半流動状の部分の動き、またマントル対流に大きな影響を与えるようになり、この動きが地殻に亀裂を生じさせ、ズレを引き起こし地震を発生させる1因になるのではないか。あるいは、溶岩流マグマの噴出を誘発して大噴火の因になることがあるかもしれないと少なからず心配しているところです。

こんな心配をさせられる地球温暖化、温室効果を高める二酸化炭素の放出を抑える施策はもちろんですが、吸収を促進する大樹の森づくりを急がねばなりません。

ハコベをはじめとする雑草軍も大樹を育てる土壌形成にはなくてはならない働きを持っています。雑草、雑草と馬鹿にしないで、温室化を押さえる植物の1員として暖かく見ることが必要なように思います。

もりふれ倶楽部の活動に関して 第1回

もりふれ倶楽部事務局長 野田真幹

最近会員の方から「もりふれ倶楽部の活動をまとめたものはないですか?」とよく聞かれます。私なりにまとめたものを3回にわたり掲載していこうと思います。

テーマ1～里山環境保全の普及啓発活動

年間を通じて毎月1回実施する看板講座の「里山自然塾」(島根県立緑化センターが直接行っていたものを県から委託され今年度で6年目となります。里山の様々なテーマを取り入れ問題を参加者と共有するとともに、里山素材を活用したものづくり、料理体験等を指導する講座です。)をはじめ、自然観察会、里山ものづくり体験、ネイチャーゲーム教室等、拠点の島根県立ふるさと森林公園のみならず、県内の公民館・学校・各種団体へ出前講座も実施しています。

その規模は、年間70～100回程度、参加者合計約3千人程度です。



小学校での樹木観察指導



里山ものづくり体験での工作指導

自然体験やものづくり体験指導をしながら伝えたい里山の森林保全の課題

ア．間伐の遅れによる山林の荒廃

林野庁「森林資源の現況」(平成19年3月31日現在)によると、全国の民有林の人工林率は45.8パーセント、島根県は37.8パーセントでその主なものはスギとヒノキです。

今から30～50年前が人工造林がさかんにおこなわれたピークの時期です。

当時は、間伐の時に柱材等でそれなりの収入があると計算していたと思います。ところが、平成22年度版森林・林業白書によると、スギの山元立木価格1㎡あたりで、昭和55年の22,

707円をピークに下落して、平成21年には、2,548円となっています。これでは、材を出せば赤字だと山主は躊躇してしまいます。

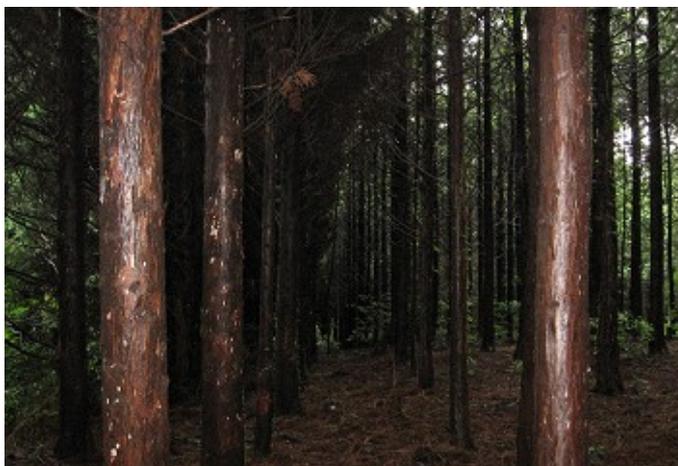
このような中で、間伐は切り捨て間伐を主体に公共事業を中心におこなわざるを得ない状況となりました。近年では、CO2の増加による急激な地球温暖化対策として平成12年までの5年間、国策で間伐が急激に進められ、材の活用も積極的にバックアップされようとしています。これらの事業は、国民多数の理解を得なければ長期にわたって継続してゆくことはできません。

では、間伐が遅れると、どのようなことがおこるのでしょうか。

平成22年度版森林・林業白書によると、「間伐は、成長の過程で過密となった立木の一部を抜き切りし、立木の密度を調整する作業である。間伐は、樹木の成長の促進により風雪害や病虫害に強い健全な森林を作る、林内の下層植生の繁茂により地表の浸食や流出を抑制する、多様な動植物の生育・生息が可能となり、生物多様性の保全に寄与するなど、森林のもつ多面的機能の発揮に大きな意義を有するものであり、林業の観点からは、残存林分の成長促進や間伐材の販売による林業収入を確保するなどの意義を有している。」とあります。間伐が遅れると、これらの機能が低下し、災害にもろく、生物多様性に乏しく、当然木材として質も低下させます。

ただ、これらのことを言葉で説明しただけでは、なかなか一般の方、ましてや子供たちには伝わりません。

そこで、以下の3枚の写真を見せながら考えいただくことにしています。



間伐が遅れ下層が生えず真っ暗な森林



5割間伐し2年経った様子



林業で天皇杯を受賞された田中惣次氏のみごとな複層林



さらに、平成21年度には、間伐の大切さを山主さん達に思い出していただくこと、上のチラシを島根県東部の山間地を中心に、新聞折り込み等を通して、1万枚配布しました。その後、会員や林研グループのメンバーで、それらの地域を歩き、森林所有者方々の生の声もお聞きしました。その中で、所有形態の問題や、不在村地主が増えたことによる問題等も浮かび上がってきましたが「是非、子孫のために良い山を残してゆきましょう!」と声掛けしました。

間伐の遅れによる森林の荒廃を伝えるために、よく用いる自然工作体験に「間伐材の和紙づくり体験」があります。スギやヒノキの甘皮を煮て、叩いて、タブの葉やビナンカズラの茎で作ったネリとあわせて和紙をつくるものですが、この体験とセットで伝えると深い印象を持っていただけるようです。



間伐し、皮をむき、和紙を作る

イ．人が手を離れたため荒廃竹林が増加

間伐の遅れとともに、里山で森林保全を巡る課題となっているのが、荒廃竹林の増加です。

かつて里山に竹林があることは大変意義のあることでした。竹の物干し竿は、全国的な需要がありましたし、筍も貴重な食資源でした。竹は加工しやすく、他の材より軽く、農家の様々な生活の中でも欠かせないものでした。しかし、大量生産大量消費の時代に入りその需要はプラスチック製品等にとってかわられ激減し、筍は皮を剥くのが面倒だと敬遠され、農家の生活からもだんだんその存在は疎遠になってゆきました。

このため、人が関らなくなった竹林は、3～4か月で十数メートルに育つことも手伝い無秩序に生えて、さらに枯れたものも混在する竹藪へとかわってゆきました。その中は、間伐が遅れた森林同様真っ暗で、生物多様性に乏しく、災害に弱い場所になります。しかも、その面積は年々拡大してゆきます。これにより、10メートル以内の樹高の造林地が丸ごと竹藪に呑み込まれて全滅することもあります。



「竹林」は人の手を離れ「竹藪」になりました

竹筒ごはんづくり

平成23年度 もりふれ倶楽部の歩み

9月30日(金)しまね森づくりコミッション出前講座15

しまね森づくりコミッションの出前講座の一環として、松江市立宍道小学校5年生62名に対して、「森の大切さの講義」、「ネイチャーゲーム」の指導を行いました。 指導 野田真幹、原利江(松江市) 宮崎徳子



10月1日(土)～2日(日) 国民参加による間伐及び間伐材の利用促進事業

メイン講師に高知県からNPO法人土佐の森救援隊の事務局長中島健造氏を招き、津和野町の林地で「伐木・造材・集材」研修と中島氏の「木のプロジェクト」に関する講演会を国土緑化推進機構「国民参加による間伐及び間伐材の利用促進事業」として実施しました。



10月3日(月)しまね森づくりコミッション出前講座16

しまね森づくりコミッションの出前講座の一環として、大田市立高山小学校3年～6年生24名に対して、「森の大切さの講義」、「和紙づくり体験」、「ネイチャーゲーム」の指導を行いました。

指導 野田真幹、宮崎徳子



10月6日(木)しまね森づくりコミッション出前講座17

しまね森づくりコミッションの出前講座の一環として、浜田市立木田小学校全校児童9名に対して「森の大切さの講義」、「和紙づくり体験」の指導を行いました。 指導 野田真幹、岡本一徳(アンダンテ21)

10月7日(金)松江市母衣小学校第2回みーもスクール

松江市母衣小学校6年生83名に対して、第2回みーもスクールを実施しました。2グループ各約40名ずつに分かれ、午前、午後交代で、第2回みーもスクールとして、奥出雲町にて「シタケ生産現場の見学」、ふるさと森林公園にて「植樹とバームクーヘン作り」を実施しました。

指導 響繁則、竹田正彦、野々村俊成、中村正志、福岡繁則、野田真幹、藤原良浩(島根県)、原利江(松江市)



10月8日(土)～9日(日)しまね協働実践事業

日原山村開発センターと津和野町の林地で「伐木・造材・集材」研修を「しまね協働事業実践」として実施しました。

講師：坂越浩一、響繁則、野田真幹

10月9日(日)里山ものづくり体験

ふるさと森林公園学習展示館の来館者に対して「里山ものづくり体験～棒焼きパンづくり」の指導をおこないました。島根県森林インストラクターの中村正志氏、福岡茂明氏が、この日訪れた親子連れに、たき火の起こし方からパンの焼き方の指導を行いました。 指導 中村正志、福岡茂明



10月10日(祝・月)松江市出雲郷幼稚園対応

松江市出雲郷幼稚園対応において、「1日限りの作業班」シリーズの一環として、森林整備作業を行いました。

メンバー 中村正志、坂本英希、竹田正彦、田口孝道

10月12日(水)しまね森づくりコミッション出前講座18

しまね森づくりコミッションの出前講座の一環として、雲南市立寺領小学校3,4年生19名に対して「森の大切さの講義」、「ネイチャーゲーム」指導と、1,2年生24名に対して「森の大切さの講義」、「木切れ工作」の指導を行いました。 指導 野田真幹、宮崎徳子



10月13日(木)雲南市立西小学校第2回みーもスクール

島根県東部農林振興センター雲南事務所林業普及グループ協働で、雲南市立西小学校4年生33名に対して、第2回みーもスクールとして、「森林作業体験」を実施しました。

指導 響繁則、中村正志、野々村俊成、野田真幹

10月13日(木)雲南市立西小学校対応

島根県東部農林振興センター雲南事務所林業普及グループ協働で、雲南市立西小学校4年生33名に対して、緑の募金植樹活動を実施しました。

指導 野田真幹



10月16日(日)第6回里山自然塾

～秋の里山でキノコを探そう!～

島根県からの委託事業「第6回里山自然塾秋の里山でキノコを探そう!」を開催しました。参加者39名は、3班に分かれ、園内の3ブロックで、それぞれキノコ探しを行いました。学習室に戻ると、各班内で相談しながら、図鑑を使って自主鑑定を行いました。その後、講師の平佐さん、宮崎さんからレクチャーを受け、自主鑑定の結果を確認してもらいました。食べられるキノコは、キノコ汁にしておいしく頂きました。

講師 平佐隆文、宮崎恵子、中村正志 ボランティア 竹田正彦、野々村俊則、木村京子



10月18日(火)しまね森づくりコミッション出前講座19

しまね森づくりコミッションの出前講座の一環として、江津市立江津東小学校4年生19名に対して「森の大切さの講義」、「ネイチャーゲーム」指導を行いました。当日は参観日も兼ねていましたので、保護者の方達にも参加して頂きました。指導 野田真幹、宮崎徳子

10月18日(火)しまね森づくりコミッション出前講座20

しまね森づくりコミッションの出前講座の一環として、雲南市立吉田中学校全校生徒51名に対して「森の大切さの講義」、「樹木観察」指導を行いました。

指導 野田真幹、中村正志、宮崎徳子



10月20日(木)しまね森づくりコミッション出前講座21

しまね森づくりコミッションの出前講座の一環として、奥出雲町立高田小学校1年～4年生12名に対して「森の大切さの講義」、「木切れ工作」指導と、5,6年生6名に対して「森の大切さの講義」、「樹木観察」を行いました。指導 野田真幹、中村正志、原利江(松江市)

10月21日(金)しまね森づくりコミッション出前講座22

しまね森づくりコミッションの出前講座の一環として、雲南市立海潮小学校全校児童99名に対して「森の大切さの講義」を行いました。

指導 野田真幹、宮崎徳子



10月22日(土)第5回大人のための自然観察会

ふるさと森林公園において「大人のための自然観察会」を行いました。この日みられた植物の写真は、HPにアップするとともに、学習展示館に掲示しています。どうぞご覧下さい。

指導 中村正志 ボランティア 田口孝道



10月22日(土)～23日(日)しまね協働実践事業

津和野町の林地で「伐木・造材・集材」研修「しまね協働事業実践」として実施しました。

講師 響繁則、遠藤正資、野田真幹

10月23日(日)樹木診断講座

松江市、松江市樹木マップ作成実行委員会と共同主催で、松江市楽山公園において、樹木診断講座を開催しました。公園内を散策して、樹木医の方たちから樹木診断法や樹勢回復方法を教わりました。

メイン講師 佐藤仁志 スタッフ 福岡茂明、洲濱寿晴、難波徹、野口朱美、立野直樹、中村正志



10月23日(日) 樹木医養成講座

日本樹木医会島根支部会と共同主催で、樹木医養成講座を開催しました。 講師 佐藤仁志 他



10月21日(水) しまね森づくりコミッション出前講座23

しまね森づくりコミッションの出前講座の一環として、津和野町立佐鏡小学校全校児童9名に対して「森の大切さの講義」、「木切れ工作」、「ネイチャーゲーム」の指導を行いました。

指導 野田真幹、安達美香(アンダンテ21)

10月27日(木) しまね森づくりコミッション出前講座24

しまね森づくりコミッションの出前講座の一環として、川本町立川本西小学校5,6年生15名に対して「森の大切さの講義」、「和紙づくり体験」指導を行いました。 指導 野田真幹、宮崎徳子



10月28日(金) しまね森づくりコミッション出前講座25

しまね森づくりコミッションの出前講座の一環として、浜田市立第二中学校1年生50名に対して「森林保全の講義」と「ネイチャーゲーム」の指導を行いました。

指導 野田真幹、岡本一徳(アンダンテ21)

11月1日(火) 安来市立布部小学校対応

安来市立布部小学校3~4年生12名に対して、学校林でネイチャートレーニングを行いながら樹木学習の指導を行いました。この事業は、緑の募金の助成を得て行われています。

指導 中村正志、野田あや子、矢野綾子(島根県)



11月2日(水) 雲南市立西日登小学校対応4

雲南市立西日登小学校5年生に対して、学校林で樹名板をつけながら、樹木学習の指導を行いました。この事業は緑の募金の助成を得て行われています。

指導 中村正志、野田真幹、藤原良浩(島根県) 矢野綾子(島根県)

11月3日(木) 雲南市立西小学校PTA対応

雲南市立西小学校PTAに対して、間伐指導を行いました。

指導 中村正志、響繁則、野々村俊成、野田真幹



11月6日(金) 第7回里山自然塾

~ 間伐材で芸術の秋を! フクロウの置物とマグネットどめ作り! ~

島根県からの委託事業「第6回里山自然塾間伐材で芸術の秋を! ふくろうの置物とマグネットどめ作り!」を開催しました。24名の参加者は、講師の竹田正彦氏の指導で、間伐材の輪切りを利用して、「フクロウのマグネットどめ」、「フクロウの置物」を作成しました。

指導 竹田正彦 ボランティア 木村京子



11月6日(日) 出雲市・奥出雲町住民交流会対応

出雲市・奥出雲町住民交流会の一環として、「森林整備の大切さ」の話と「こけ玉づくり」、「和紙づくり体験」の指導を行いました。

指導 野田真幹、伊原千里

11月7日(月) 奥出雲町阿井公民館対応

奥出雲町阿井公民館の主催行事で、小学生12名を対象に、飾り炭つくりと焼き芋つくりを行いました。 指導 野田真幹、内田百合子、宮崎徳子





1 1月8日(火)雲南市立吉田中学校対応

鳥根県東部農林振興センター雲南事務所林業普及グループ協働で、雲南市立吉田中学校全校生徒に対して、枝打ち・間伐体験学習を実施しました。

指導 響繁則、野田真幹

1 1月12日(土)里山ものづくり体験

鳥根県立ふるさと森林公園学習展示館の来館者に対して「里山ものづくり体験～スギの皮で和紙づくり」の指導をおこないました。 指導 野々村俊成

1 1月12日(土)出雲私立西高等学校対応

鳥根県立ふるさと森林公園学習展示館とヒノキ林において、出雲西高等学校の生徒約20名に対して、「森の健康診断」、「森林保全の講義」、「スギの皮から和紙づくり体験」の指導をおこないました。

指導 野々村俊成、野田真幹 ボランティア 青木宣雄



1 1月13日(日)松江市出雲郷幼稚園対応

松江市出雲郷幼稚園において、園児と父兄約200名に対し、「樹木学習指導」、「ネイチャーゲーム指導」、「樹名板設置」をおこないました。

指導 横田典子、谷口枝里子、福岡茂明、中村正志、三枝鋼一

三枝共子、妹尾明美、松本尚子、野田真幹

1 1月13日(日)第4回森林ボランティア講座

鳥根県立ふるさと森林公園での国際森林記念イベントとして、第4回森林ボランティア講座「今、枝打ちはなぜ？基本と実践を学ぶ！」を開催しました。

指導 穂井田頼、響繁則、遠藤正資、中村正志、野田真幹



1 1月13日(日)地SUN地SHOW対応

くにびきメッセを会場に、「第28回地SUN地SHOW祭り」が開催され、もりふれ倶楽部も「コケ玉づくり」、「木切れ自然工作」のコーナーを出展しました。 指導 野々村俊成、伊原千里、野田あや子、宮崎徳子

指導 野々村俊成、伊原千里、野田あや子、宮崎徳子



1 1月15日(火)宍道湖西岸森と自然財団対応

ふるさと森林公園学習展示館において、宍道湖西岸森と自然財団主催の行事に参加されている宍道小学校の生徒12名に対して、木切れや木の実を使っの工作の指導を行いました。 指導 宮崎徳子



1 1月17日(水)松江環境市民会議対応

ふるさと森林公園学習展示館と北部ヒノキ林において、松江環境市民会議メンバーに対して、「森の健康診断」、「森林保全の講義」、「ヒノキの和紙づくり体験」の指導を行いました。

指導 野田真幹 藤原良浩(鳥根県)

1 1月17日(水)視察対応

ふるさと森林公園学習展示館において、姫路市より視察に来られた香呂財産区議会議員に対して「森林保全の話し」と「スギの皮から和紙づくり」体験をしてもらいました。

指導 野田真幹 藤原良浩(鳥根県)

1 1月18日(金)鳥根県立出雲農林高等学校対応

飯南町来島の山林において、鳥根県立出雲農林高等学校環境科学科1年生に対して、「林業を体験し、林業を考える」をテーマに「枝打ち体験」「間伐体験」「集材体験」の指導をしました。午後は鳥根県立農業大学校に行き、宇山由夫氏より学校の説明を聞きました。 指導 響繁則、中村正志、福岡茂明、野田真幹



会員の皆様のおかげを持ちまして表彰いただきました！

平成 23 年 11 月 10 日、中国・四国地区緑化推進協議会が毎年、管内で緑化推進に功績のあった団体・個人をたたえる功労者に N P O 法人もりふれ倶楽部理事・事務局長 野田真幹さんが選ばれ、表彰されました。

同氏は平成 1 8 年 4 月より同団体の事務局長に就任され、県下各地で植樹・下刈・間伐等森林ボランティア活動を推進してきました。平成 2 1 年には「しまね森づくりコミッション」を組織し、県内小中学校への出前講座等の企画運営を行っています。また、並行して「間伐の大切さ」や「里山保全の大切さ」を伝える普及啓発活動にも力を入れていることが評価され、今回の受賞となりました。（文章は島根県緑化推進委員会の HP より転載）



野田真幹のプロフィール

信州大学大学院修士課程農学研究科修了後、朝市等に取り組む農事組合法人、(社)農山漁村文化協会勤務。平成 10 年に島根県に I ターンし、森林組合の作業班員として約 7 年間、林業の現場で働く、平成 17 年 N P O 法人もりふれ倶楽部の理事に就任、平成 18 年から同 N P O 事務局長を兼務。学校も含めた年間百回前後の自然体験・自然工作を通しての森林保全の大切さの普及啓発活動、森林ボランティア活動、森林所有者を対象とした研修の企画・運営に携わる。

現在、島根県林研グループ連絡協議会副会長、森林を守ろう！山陰ネットワーク会議島根代表、社団法人島根県緑化推進委員会運営協議会委員等を務める。

もりふれ倶楽部今後の予定

1月8日(日) 10時~15時 里山自然塾「これぞ、春の七草！」

参加者募集中：参加費300円 場所：ふるさと森林公園学習展示館と園内
持ち物~弁当・飲み物 定員20名(申し込み順)

1月8日(日) 17時~18時 ふるさと森林公園とんどさん

参加者募集中：参加費無料・事前申し込み不要 ふるさと森林公園園内広場

1月9日(土) 9時30分~11時30分 第6回大人のための自然観察会(自然を撮ろう!カメラを持って集まろう!)感動的な自然との出会いへご案内します。15歳以上の方を対象とさせていただきます。

参加者募集中：参加費100円、前日正午まで申し込みをお受けします。

ふるさと森林公園学習展示館集合

会員ボランティア募集中：9時~12時~若干の交通費補助支給

会員も参加者としても参加できます。ボランティア参加の場合その旨を申し込み時にお伝えください。当日、スタッフ的な役割をお願いいたします。

1月15日(日) 10時00分~15時00分 第6回「神話の里・さくらおろちの食べごと塾」

とんどさん、七草粥 場所：尾原公民館・とんどさん会場

参加者募集中 参加費：1,000円(昼食代込み) 定員：20名(申し込み順)

県庁郵便局前8時15分発、ふるさと森林公園学習展示館前9時10分発で無料送迎バスが出ます。

1月21日(土) 14時~17時 フォーラム「生物多様性の保全がまちを変える」

講師：白川勝信(広島県北広島町高原の自然館学芸員)

場所：ふるさと森林公園学習展示館

参加者募集中：参加費無料 定員30名(申込み順)

1月29日(日)ふるさと森林公園「森林ボランティア講座」

第5回：チェーンソーの基本と実践を学ぶ(目立ても含めてプロから教わります。)

参加者募集中：参加費300円 持ち物~弁当・軍手・飲み物・雨天時は雨具。

定員15名(申し込み順)

森林ボランティア1日限りの作業班：各回10時~15時

1月22日(日) 美保関竹林整備

1月28日(土) 2月4日(土) 出雲市佐田町よし栗の里裏山整備

各回参加者募集中：1日中各自のペースで作業をします。参加費無料・昼食支給

持ち物~軍手・飲み物・雨天時は雨具・虫に弱い方は虫除け

有る方はチェーンソー

前日正午まで申し込お受けします。

会員の方には、若干の交通費補助を支給します。

場所のわからない方はご相談ください。

もりふれ倶楽部会報 NO.32

〒699-0406 松江市宍道町佐々布3352

ふるさと森林公園学習展示館内 もりふれ倶楽部

TEL(0852)66-3586 FAX(0852)66-3586

[メール morifure@coffee.ocn.ne.jp](mailto:morifure@coffee.ocn.ne.jp)

ホームページ <http://www.morifure.jp/>